

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	古伏脇 みか	学年(渡航時)	3
派遣先大学	東国大学		
国・地域	韓国		
派遣期間	2025 年 9 月	～	2025 年 12 月

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
現代世界と韓国	韓国の近代史を中心とした「解放」の歴史について
世界文学と韓国文学	文学の基礎知識と世界の文学作品について
日本歴史の理解	古代日本の歴史について
多文化社会の実習	多文化社会の現状と実習課題の実践

留学レポート(1,500 字以上)

私は留学支援課枠の交換留学で、韓国の東国大学に留学しました。本レポートでは、その留学経験を通じて私が得たものについて、学習面と日常生活面に分けて書こうと思います。

まず学習面では、私が長崎大学にて学んできたことと、個人的に関心を抱いていた学問分野を繋げて、意義深い学習をすることができたと思います。私はもともと、長崎大学で多文化社会学部共生文化コースに所属し、表象文化論を学んでいました。表象文化論では、映画やドラマ、小説といったメディアが社会や人々の意識にどのような影響を与えるのかを、主にメディア哲学的な視点から考えてきました。当初は、東国大学にて、そういうメディア分野を学習する予定でしたが、一週目の授業でそれらの知識が既に自分にあるように感じて履修をやめました。つまりメディア系の授業は最低限の履修にとどめ、その分のエネルギーを、これまで断片的にしか触れることができなかった、個人的な関心のある分野へ向けることにしました。

私が以前から強い関心を抱いていたのが、日韓関係にまつわる歴史的な諸課題についてです。そのため韓国の近代史に関する授業や、日本の歴史に関する授業を履修しました。韓国人学生と一緒に韓国近代史を学ぶ経験は、日本で教科書を読むだけでは得られない緊張感を伴っており、ときには日本人である自分が教室の中でどのように見られているのかを意識せざるを得ない瞬間もありましたが、その居心地の悪さこそが、韓国で学ぶ意味だったように思います。

特に印象に残っているのは、韓国の大学で教えられる「日本の姿」を、日本人として直接聞いたことです。それは必ずしも心地よいものではありませんでした。しかし、誰かが作った要約ではなく、教育の現場で語られる言葉としてそれを受け取ったことで、日韓関係を考える良い経験になったように思います。

また、「多文化社会の実習」という講義では、これまで多文化社会学部で学んできた知識を踏まえ、自ら絵本を制作するという実習課題に取り組みました。知識を蓄えるだけでなく、それを形にして誰かに届ける経験は、学問と現実社会をつなぐ作業であり、日本での学びと韓国での経験がつながった瞬間だったように思います。

一方、日常生活の面では、語学力以上に、精神的な成長を実感する場面が多くありました。留学中は常に、言葉や文化の違いが、勉強すればすぐに解決できるものではないことを実感していました。言いたいことが思うように伝わらず、必要以上に疲れて自分に失望してしまう日も多かったです。また講義では知らない単語が次々に出てきて、内容についていくのに必死な日もあり、課題や発表、試験でも、人一倍時間をかけて、良い評価が得られないこともあります。それでも、その時間は無駄だったとは思っていません。分からぬことを分からぬままにせず、落ち着いて聞き返すこと、曖昧な返事をしないことを意識するなどして、少しずつ状況を乗り切った経験は、何物にも代えがたいと思います。

留学生活を振り返ると、人の優しさに何度も救われた気がします。もちろん、全員が全員親切というわけではなかったので、綺麗ごとは言えません。しかし困っているときに手を差し伸べてくれた同級生や、丁寧に私と向き合

つてくださった教授の存在は、異国で生活する私にとって大きな支えでした。私もいつか誰かにとってそんな存在になりたいと、心の底から思っています。

この留学を通して得たものは、知識や経験だけではありません。学習面でも精神面でも大きく成長し、良い方向に自分を変えてくれたと思います。楽しいことだけではないのが長期留学ですが、それ以上に得たものは多かったです。今後もここで得たものなくさずに、自分の人生に活かしていきたいと思います。

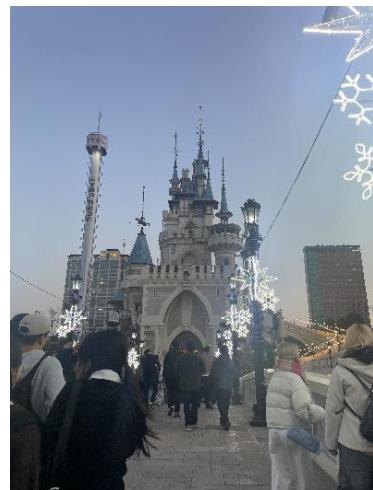
留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



景福宮にて韓服体験



キャンパス内にいた巨大雪だるまと



ロッテワールド



留学生仲間たちと韓国プリクラ



秋の文化祭にて